

令和8年度（第75回）「神奈川文化賞」及び 「神奈川文化賞未来賞」の受賞者プロフィール

神奈川文化賞
のじま ひろし
野島 廣司（75歳）

●産業●

株式会社ノジマ代表執行役社
長。家電販売チェーンを展開



横浜生まれ。相模原育ち。大学卒業後、家業である有限会社野島電気商会（現・株式会社ノジマ）へ入社。経営悪化により社員数2名となっていた会社を立て直し、お客様に寄り添った販売方針のもと、一代で連結売上高9,800億円（2026年3月期）、家電販売チェーン業界第2位の企業グループへと成長させた。

同社では、シニア人材が活躍し続ける場を提供するため、最長80歳までの雇用延長や、アルバイト出身の女性若手社員の役員への登用など、多様な人材の活用を進めてきた。また、野球やサッカーなど6分野のスポーツへの支援を行うことで、各チームの取組を神奈川県内に展開し、地域・社会貢献活動に取り組んでいる。

また、1984年から、出店地域の自治体に対して、現金及び商品券、家電などの寄贈を継続的に行うことで、地域社会との共栄やサステナビリティの活動を推進してきた。

2016年には野島財団を設立し、次世代を担う人材の育成、並びに学術・科学技術、文化・社会・スポーツ等の分野における学生に奨学金支給による支援にも取り組み、神奈川県のみならず、日本全国の発展向上にも貢献している。

[横浜市]

神奈川文化賞

あかし ようこ

明石 洋子 (80歳)

●社会福祉●

社会福祉法人あおぞら共生会前理事
長（最高顧問）。障害者福祉に尽
力



障害者施策や療育分野で当事者の意思決定支援の重要性が十分に認識されていなかった1970年代に、知的障害のある自閉症児の長男の子育てを通じ、本人の自己決定を尊重する子育てを先導的に実践してきた。幼児期に発語がなく、こだわりを止めるとパニックを起こしていた長男の特性を理解してもらおうと、「てっちゃん便り」（現「明石通信」）にして近所や商店街に配るなど、自閉症に対する偏見を払拭しながら周囲に理解者・支援者の輪を広げた。

その後、障害児を持つ親の会で保育園入園運動、普通学級就学運動をしながら、後期中等教育卒業後の行き場として、就労拠点と地域との交流のために「八百屋」を業とする地域作業所を1989年に設立。その運営母体として2001年12月に社会福祉法人あおぞら共生会を立ち上げた。グループホームや小規模作業所、菓子店（地域活動支援センター）など事業の幅を広げ、国や自治体制度を先取りした取組を行ってきた。現在も、現場の第一線に立ちながら、障害者の権利擁護活動、自閉症への理解啓発を訴える活動、障害児を持つ親のサポートなど、障害者福祉のリーダーとして先導する役割を担っている。

[川崎市]

神奈川文化賞

ふじ たつや

藤 竜也 (85歳)

●芸能●

俳優。デビューから 60 年以上、
映画やドラマなどで活躍



幼少期から高校卒業まで横浜の学校に通う。日本大学芸術学部在学中にスカウトされ、日活へ入社。1962年にスクリーンデビューを果たす。その後、渡哲也主演の「野獣を消せ」に出演し存在感を示した。

1973年「時間ですよ」、1975年「悪魔のようなあいつ」などのテレビドラマでも活躍。1976年の「愛のコリーダ」、1978年「愛の亡霊」ではセンセーショナルな話題と共に海外でも高い評価を得た。2005年の「村の写真集」で第8回上海国際映画祭・最優秀主演男優賞受賞。2015年「龍三と七人の子分たち」に主演。2023年「高野豆腐店の春」「それいけ！ゲートボールさくら組」で主役を務め、俳優としての功績に対し、第45回ヨコハマ映画祭特別大賞を受賞した。

作詞家として「横浜ホンキートンク・ブルース」を手掛けた。この曲は歌手のみならず松田優作氏や原田芳雄氏、佐藤浩市氏など多くの俳優にも歌われ、横浜のスタンダードナンバーとして今も多くの人から愛されている。

2026年には「魯山人のかまど」に主演し、人間の本質や生きる意味を問いかける深い演技が評価された。

[横浜市]

神奈川県文化賞未来賞

こだま はやと
児玉 隼人 (17歳)

●芸術●

トランペット奏者として活躍



5歳からホルネット、9歳からトランペットを本格的に吹き始める。若手演奏家の登竜門として位置付けられている「第39回日本管打楽器コンクール」では、全部門を通して史上最年少での第1位受賞を果たしている。

2023年に北海道から神奈川県相模原市へ転居。2025年3月、同市の中学校を卒業し、ドイツのカールスルーエ音楽大学のプレカレッジに留学し、ラインホルト・フリードリヒ氏に師事。現在は通信制高校に籍を置きながら、ドイツのハノーファー音楽演劇メディア大学にて、イエルーン・ベルワルツ氏に師事。

2025年には1stアルバム「Reverberate」をリリース。同年7月から相模原市を皮切りに、初めての全国ツアー公演を行った。2026年9月のサントリーホール大ホールでのリサイタルは全席完売。NHK交響楽団、東京都交響楽団、読売日本交響楽団など多くの国内オーケストラと共演。欧州や米国でのコンサートデビューも果たしており、国際的な活躍が期待されている。

NHK・Eテレ「クラシック音楽館」「クラシックTV」、テレビ朝日「題名のない音楽会」などテレビ番組にも多数出演し、トランペットの魅力を伝えている。

[相模原市]

神奈川文化賞未来賞

おき か な こ
沖 香菜子 (36歳)

●芸術●

バレエダンサーとして活躍



4歳の頃に横浜市内の教室でバレエを始める。2008年9月、高校3年時に文化庁新進芸術家の海外研修制度に合格し、モスクワ舞踊アカデミーに留学。ロシアのバレエダンサーと肩を並べて研鑽し、学校公演で「くるみ割り人形」雪の精・花のワルツ、「パキータ」などを踊る。

2010年、東京バレエ団に入団。翌年「ダンス・イン・ザ・ミラー」で初舞台を踏む。12年 子どものためのバレエ「ねむれる森の美女」初演にてオーロラ姫役で注目を集め、16年ファースト・ソリスト昇進を経て、18年4月からは最高位のプリンシパルを務める。

2023年4月、出産を経て1年ぶりに舞台復帰。東京バレエ団が振付家金森穰氏に委嘱して制作した「かぐや姫」第2幕に影姫役で出演。凜としたたくましい役どころで、踊り手として新たな一面を披露した。同年秋に同作の全幕に出演したほか、11月の「眠れる森の美女」と12月の「くるみ割り人形」、2024年春以降の「白鳥の湖」と「ロミオとジュリエット」でも主演するなど、精力的に舞台に立っている。

横浜市港北区でバレエスタジオ「プレリーナ」を主宰。3歳以上を対象にバレエの基礎を指導しつつ、踊る喜びや楽しさを伝授している。

[神奈川県]